

# 令和2年7月豪雨等<sup>※1</sup>による土砂災害の発生状況(令和2年8月1日時点)

※1: 令和2年6月30日から7月31日までの一連の降雨

長野県内では、梅雨前線に伴う大雨により多くの土砂災害が発生しました。とくに、6月30日から7月31日までの一連の豪雨により、人的被害や家屋被害、避難指示等を伴う甚大な被害が生じています。

**土砂災害発生件数**  
(令和2年8月1日時点)

**84件**

- 土石流等 : 18件
- 地すべり : 36件
- がけ崩れ : 30件

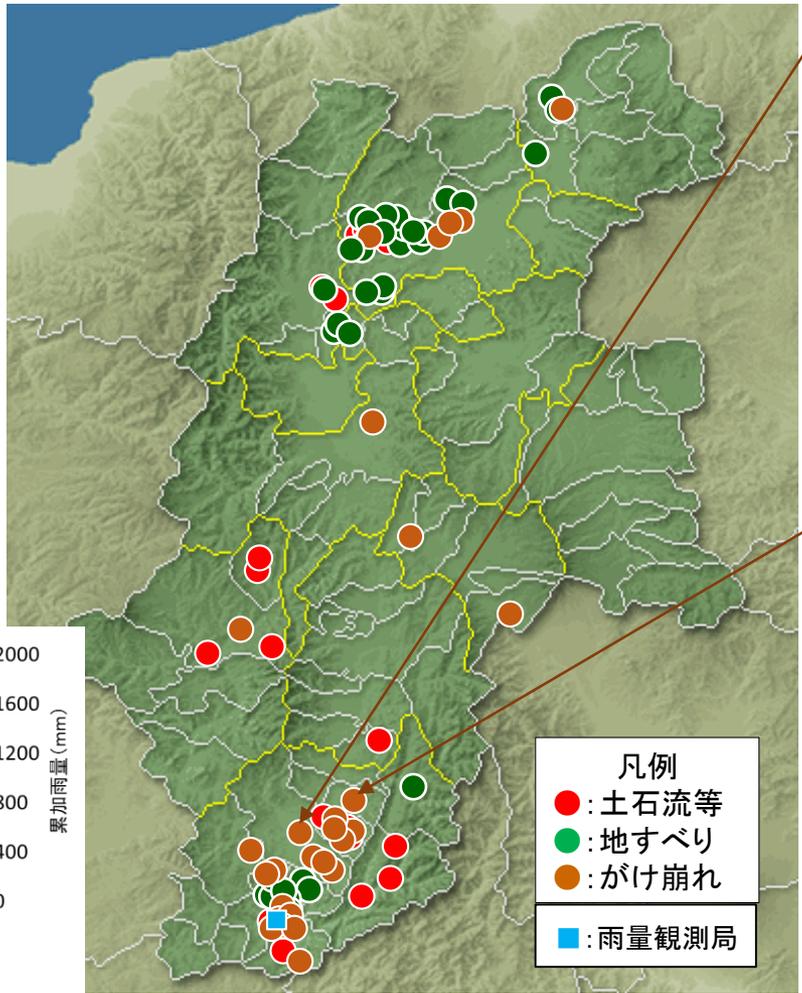
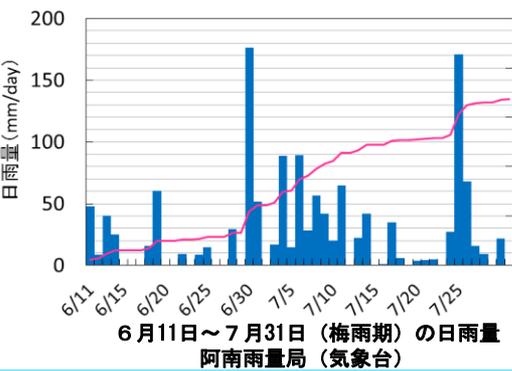
**【被害状況】**

**人的被害**

- 死者 : 1名<sup>※2</sup>
- 負傷者 : 1名<sup>※3</sup>
- 行方不明 : 0名

**家屋被害**

- 全壊 : 0戸
- 半壊 : 0戸
- 一部損壊 : 2戸



※2

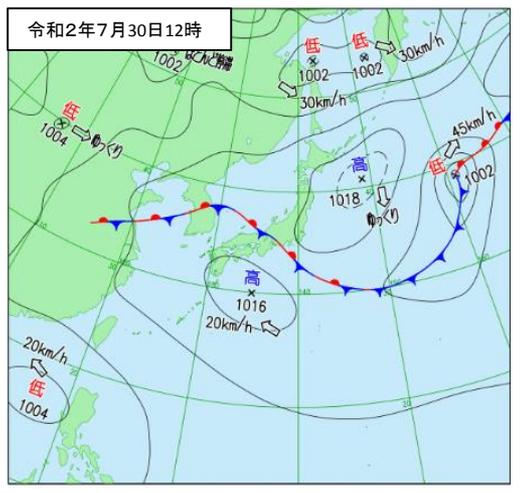
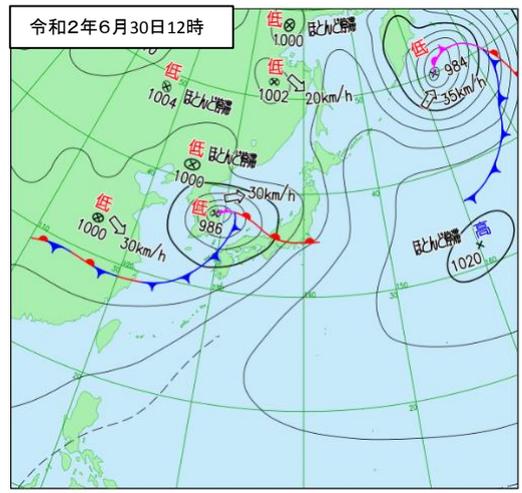
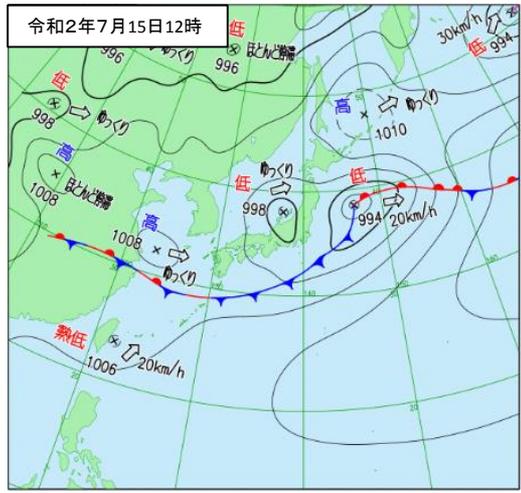
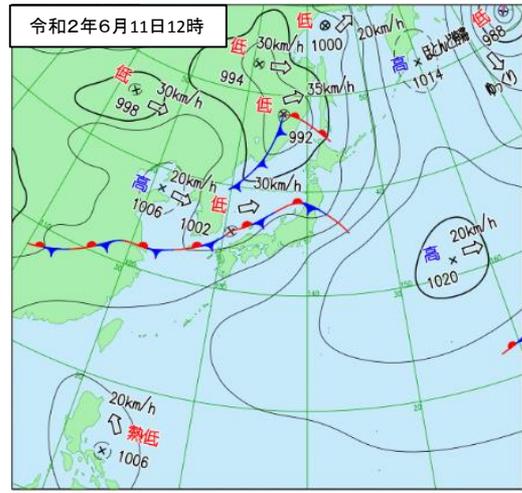
発生日時: 7/12  
発生場所: 飯田市座光寺宮崎  
事象 : がけ崩れ  
被害状況: 死者1名。  
降雨後、現場作業中に被災。  
避難状況: 下流人家3世帯7名避難。

※3

発生日時: 7/12  
発生場所: 下伊那郡豊丘村神稲小園  
事象 : がけ崩れ  
被害状況: 重傷者1名。  
崩落箇所の様子を確認に行き、  
2度目の崩落に巻き込まれ被災。

# 令和2年7月豪雨等に係る県内の気象概要①(令和2年8月1日時点)

長野県は6月11日から梅雨入りし、8月1日に梅雨明けしました。平年の梅雨入り(6月8日)より3日遅く、平年の梅雨明け(7月21日)より11日遅くなりました。また、令和2年7月は観測史上初、**台風が発生しない月**となりました。



## 長野県の梅雨入り、梅雨明け

	梅雨入り	梅雨明け
令和2年	6月11日ごろ	8月1日ごろ
平年	6月8日ごろ	7月21日ごろ
令和元年	6月7日ごろ	7月24日ごろ

## 台風の発生件数

	6月	7月	8月
令和2年	1件	0件	-
平年	1.7件	3.6件	5.9件
令和元年	1件	4件	5件

※平年値は1981年～2010年の30年平均

# 令和2年7月豪雨等に係る県内の気象概要②(令和2年8月1日時点)

令和2年6月11日から7月31日までの降水量と平年値を比較すると、県内全域で平年以上の降雨があったことがわかります。とくに、南信では、平年の3倍以上の降雨が認められた地域もありました。

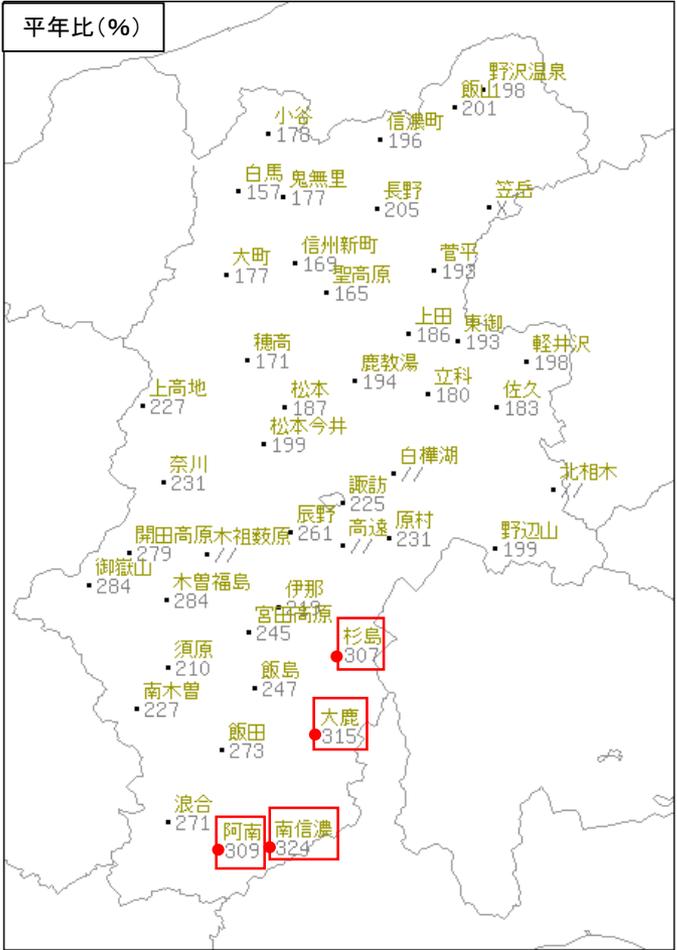


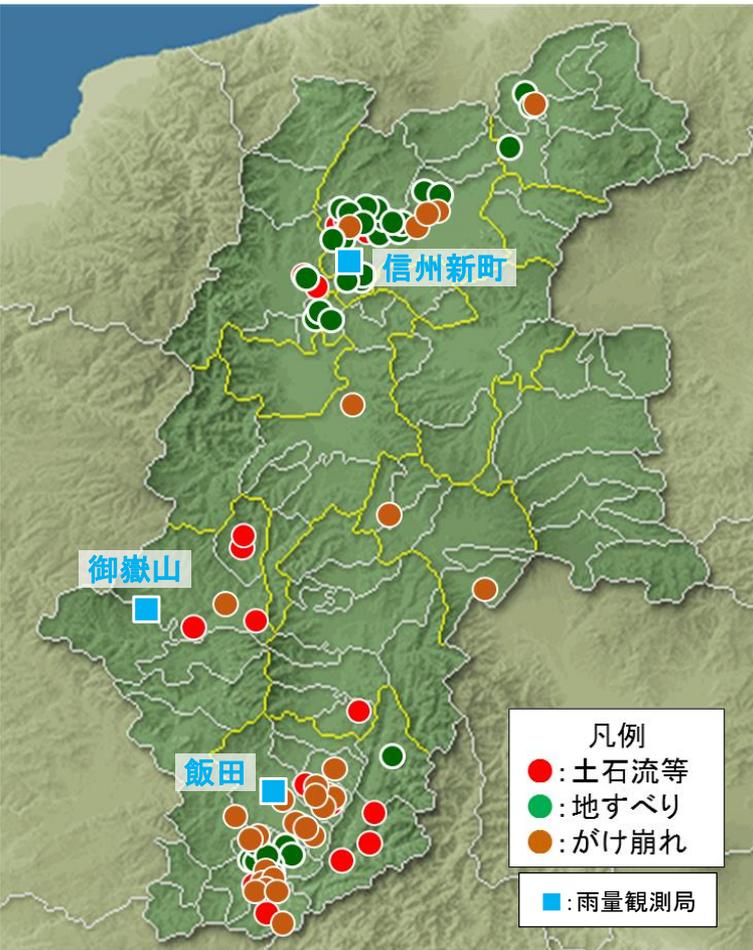
図 降水量平年比(%)

地点名	実況値	平年値	平年比(%)	地点名	実況値	平年値	平年比(%)
野沢温泉	573.5	289.0	198	奈川	1085.0	470.0	231
信濃町	550.0	280.4	196	諏訪	739.5	328.9	225
飯山	490.0	244.3	201	北相木	435.5	//	//
小谷	678.5	382.1	178	開田高原	1396.0	500.5	279
白馬	748.0	475.4	157	木祖藪原	1419.0	//	//
鬼無里	632.5	356.9	177	辰野	983.5	376.6	261
長野	462.5	225.6	205	高遠	711.5	//	//
笠岳	X	287.6	X	原村	696.5	301.9	231
大町	596.5	336.8	177	野辺山	689.0	347.0	199
信州新町	458.0	270.4	169	御嶽山	2913.0	1026.4	284
菅平	500.0	258.5	193	木曾福島	1344.0	473.3	284
聖高原	447.5	271.9	165	伊那	782.0	357.5	219
上田	413.0	221.5	186	宮田高原	1482.5	604.3	245
穂高	431.5	252.2	171	杉島	1022.5	333.3	307
東御	486.5	251.6	193	須原	1225.0	583.0	210
軽井沢	627.5	316.6	198	南木曾	1461.0	643.9	227
上高地	1548.5	681.9	227	飯島	1169.5	473.4	247
松本	453.5	243.1	187	大鹿	1297.5	412.4	315
松本今井	515.5	259.4	199	飯田	1045.0	383.4	273
鹿教湯	561.5	290.1	194	浪合	1629.5	601.0	271
立科	469.0	261.2	180	阿南	1344.5	435.1	309
佐久	446.0	244.2	183	南信濃	1399.5	431.9	324
白樺湖	958.0	//	//				

資料提供:長野地方気象台より

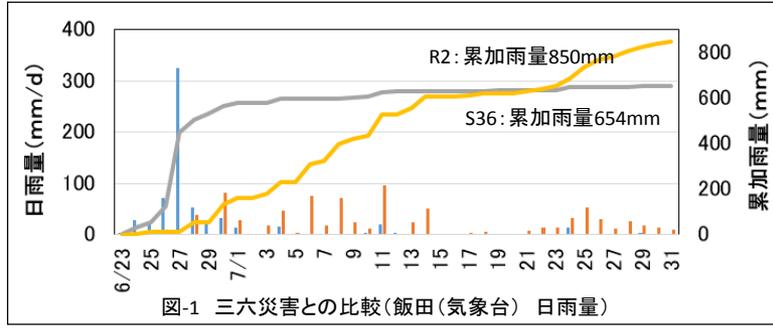
# 令和2年7月豪雨等と既往災害との降雨データの比較(令和2年8月1日時点)

本県に甚大な被害を及ぼした梅雨期の既往災害(①三六災害、②平成7年7月豪雨災害、③平成18年7月豪雨災害)と令和2年7月豪雨等との降雨データの比較を行うと、令和2年7月豪雨等は、長期間にわたり雨が降り続き、かつ、強い雨が地域によっては複数回降ったことがわかります。



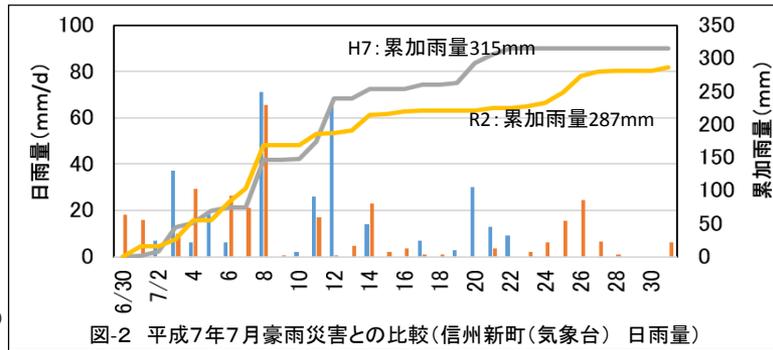
## ①三六災害との比較(飯田)

- 時間最大雨量の比較
    - ・S36災 時間最大雨量 36.0mm/h (6/27)
    - ・R2.7豪雨 時間最大雨量 29.5mm/h (7/8)
- 昭和36年    ■ 令和2年  
— 昭和36年(累加)    — 令和2年(累加)



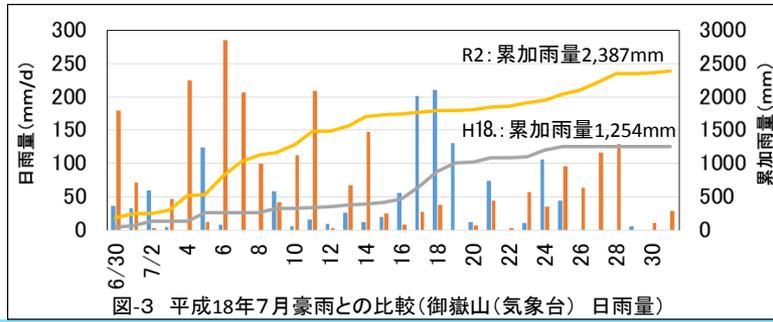
## ②平成7年7月豪雨との比較(信州新町)

- 時間最大雨量の比較
    - ・H7災 時間最大雨量 12mm/h (7/8)
    - ・R2.7豪雨 時間最大雨量 24.0mm/h (7/8)
- 平成7年    ■ 令和2年  
— 平成7年(累加)    — 令和2年(累加)



## ③平成18年7月豪雨との比較(御嶽山)

- 時間最大雨量の比較
    - ・H18災 時間最大雨量 36mm/h (7/17)
    - ・R2.7豪雨 時間最大雨量 38.5mm/h (7/11)
- 平成18年    ■ 令和2年  
— 平成18年(累加)    — 令和2年(累加)



# 令和2年7月豪雨等による土石流等の発生状況 (令和2年8月1日時点)

**土砂災害発生件数**  
(令和2年8月1日時点)

**84件**

土石流等 : 18件  
地すべり : 36件  
がけ崩れ : 30件

**1 7/1 飯田市上村万場**

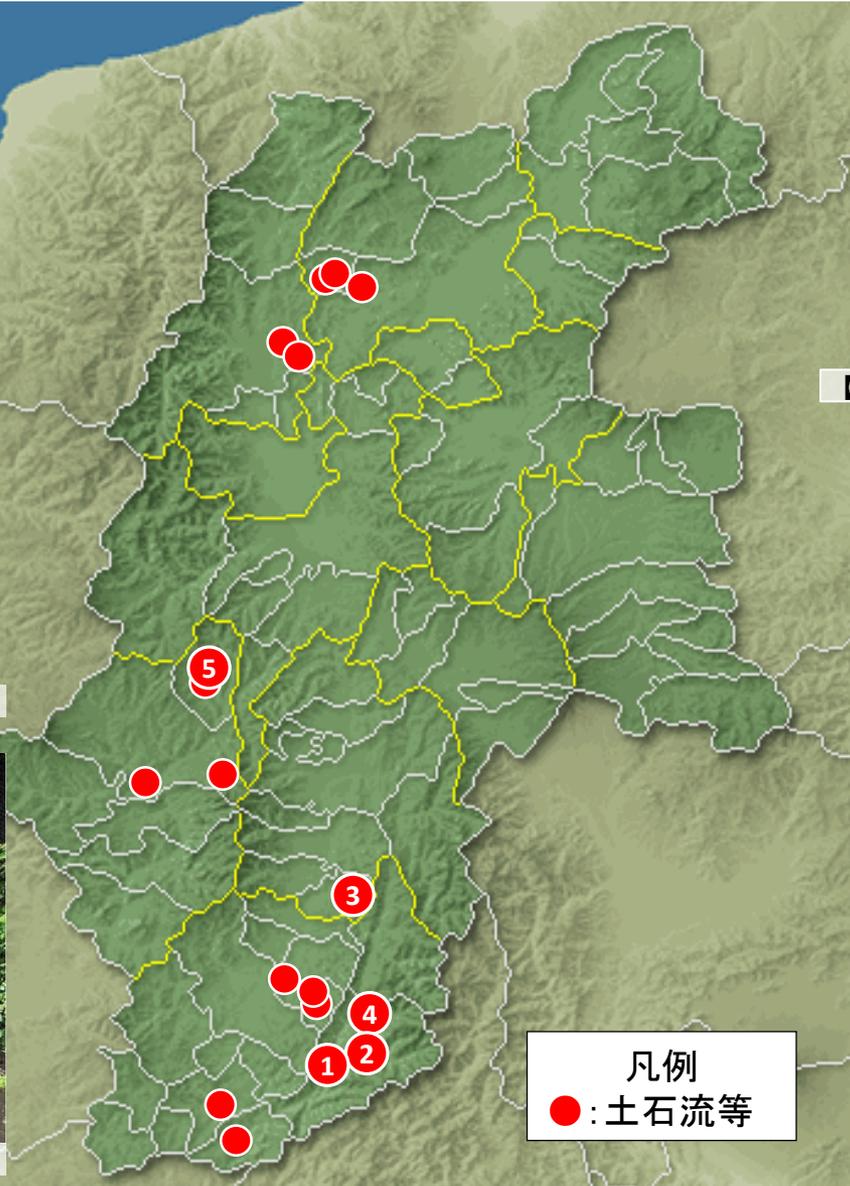


【被害状況等】人的被害なし、車庫1戸被災

**2 7/6 飯田市上村下栗樽ヶ沢**



【被害状況等】林道通行止め



凡例  
● : 土石流等

**3 7/8 中川村陣馬形**



【被害状況等】人的被害なし、3世帯自主避難

**4 7/6 飯田市上村日影岩**



【被害状況等】(国)152号及び市道被災

**5 7/11 木祖村細島**



【被害状況等】県道へ土砂流出

# 令和2年7月豪雨等による地すべりの発生状況(令和2年8月1日現在)

## 土砂災害発生件数

(令和2年8月1日時点)

**84件**

土石流等：18件

地すべり：36件

がけ崩れ：30件

### 3 7/8 長野市大岡乙根越



【被害状況等】人家一部損壊、1世帯自主避難

### 4 7/9 生坂村袖山



【被害状況等】村道崩落

### 5 7/16 飯山市木島吉



【被害状況等】人的被害なし、17世帯避難

### 1 7/7 長野市中条上奈良井

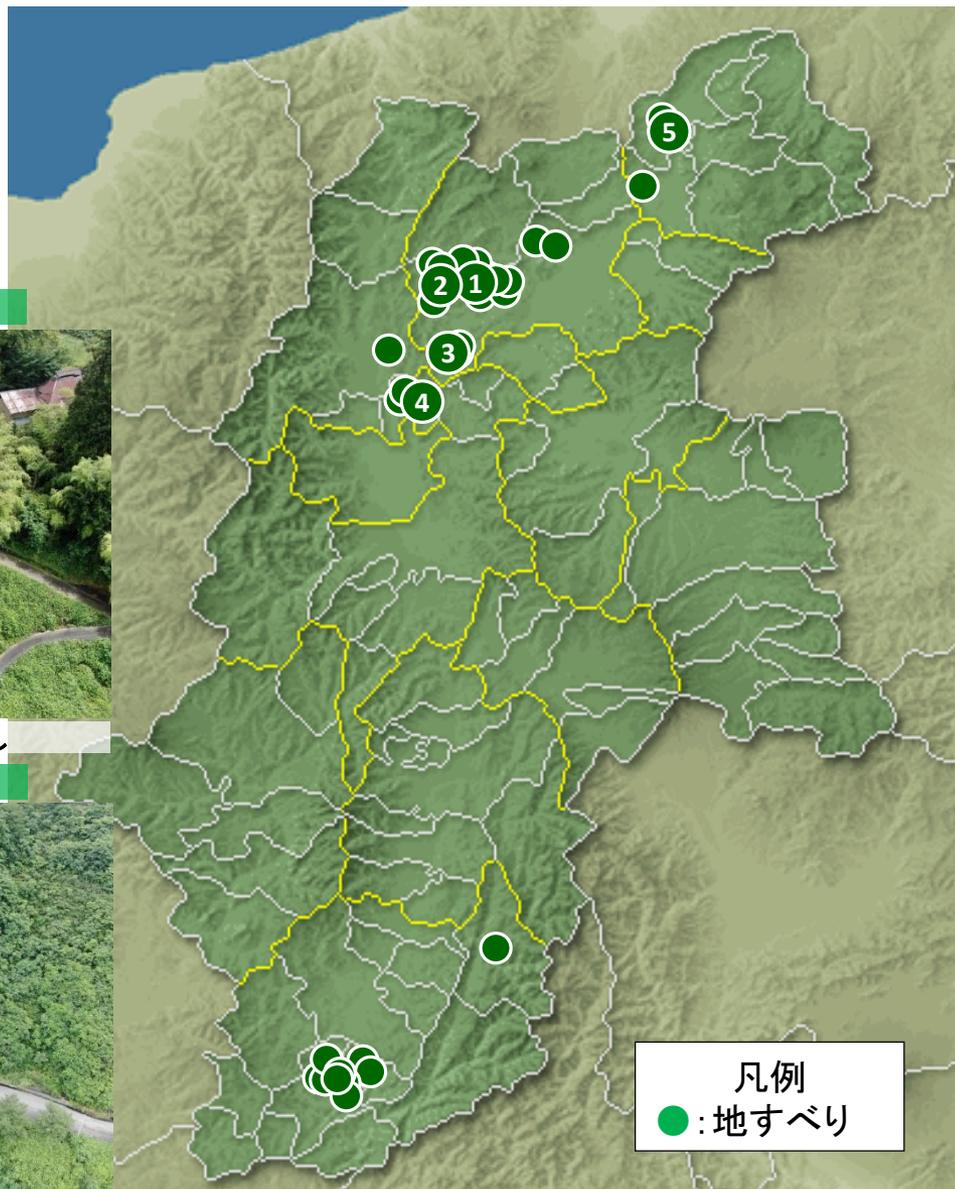


【被害状況等】人的被害なし

### 2 7/8 小川村瀬戸川下北尾



【被害状況等】村道埋塞、1世帯自主避難



# 令和2年7月豪雨等によるがけ崩れの発生状況(令和2年8月1日現在)

## 土砂災害発生件数

(令和2年8月1日時点)

**84件**

- 土石流等 : 18件
- 地すべり : 36件
- がけ崩れ : 30件

### 1 7/8 阿智村伍和



【被害状況等】住家敷地一部崩落、1世帯避難

### 2 7/11 喬木村加々須野田原



【被害状況等】人的被害なし、駐車場等被災

### 3 7/25 飯田市千栄大郡



【被害状況等】人家1戸一部損壊、3世帯自主避難

### 4 7/25 阿南町南條平久

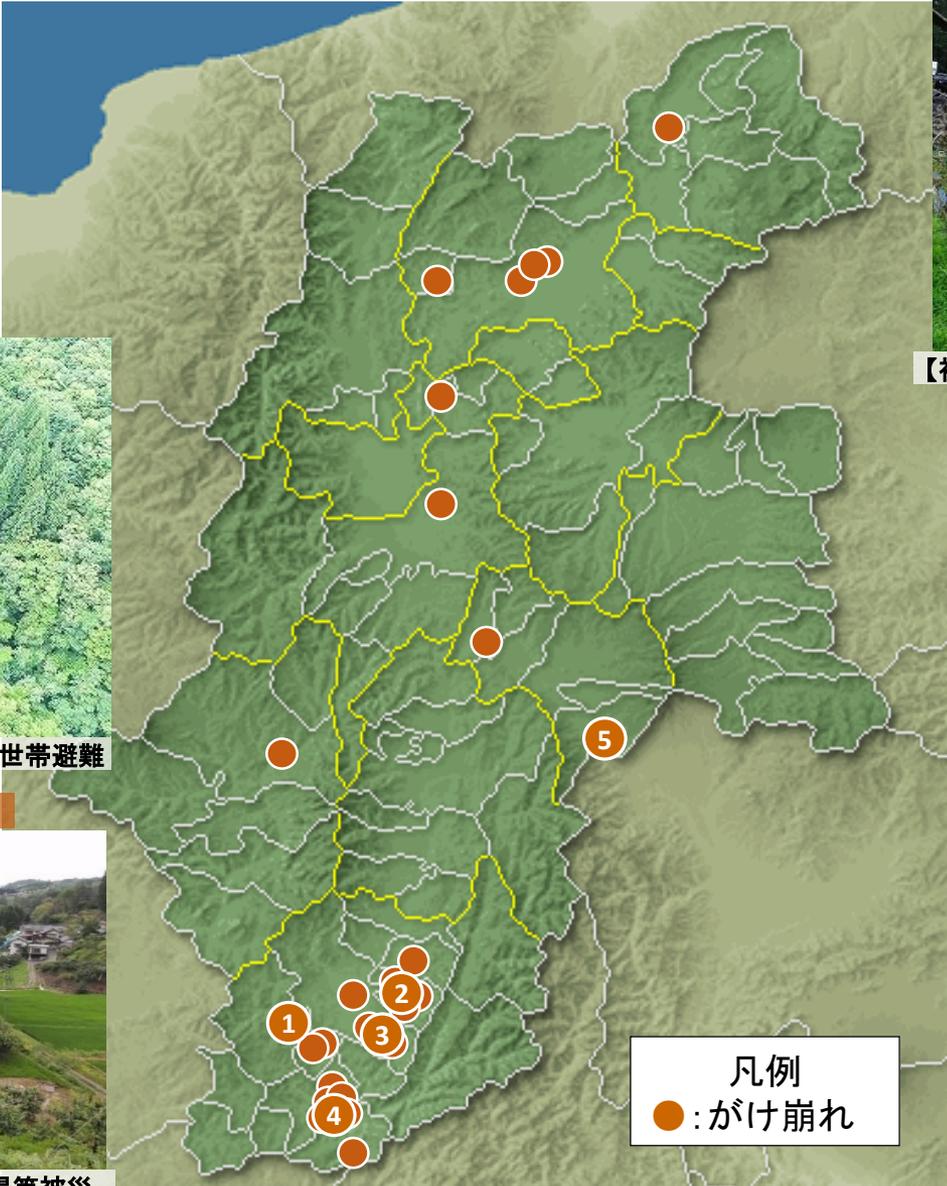


【被害状況等】1世帯自主避難

### 5 7/29 富士見町神代平岡



【被害状況等】石積み崩落



凡例  
● : がけ崩れ

# 土砂災害発生箇所と土砂災害危険箇所との比較

土石流発生箇所と土石流危険渓流<sup>※1</sup>、地すべり発生箇所と地すべり危険箇所<sup>※2</sup>、がけ崩れ発生箇所と急傾斜地崩壊危険箇所<sup>※3</sup>をそれぞれ重ね合わせると、事象別の土砂災害発生箇所と危険箇所との分布は、特に地すべりにおいて、概ね一致すると推察できます。

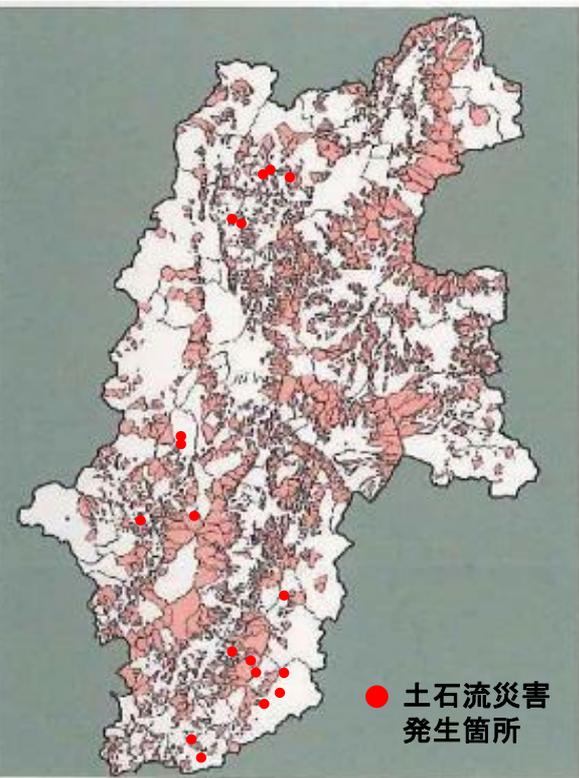


図-1 土石流災害と土石流危険渓流との重ね合わせ図

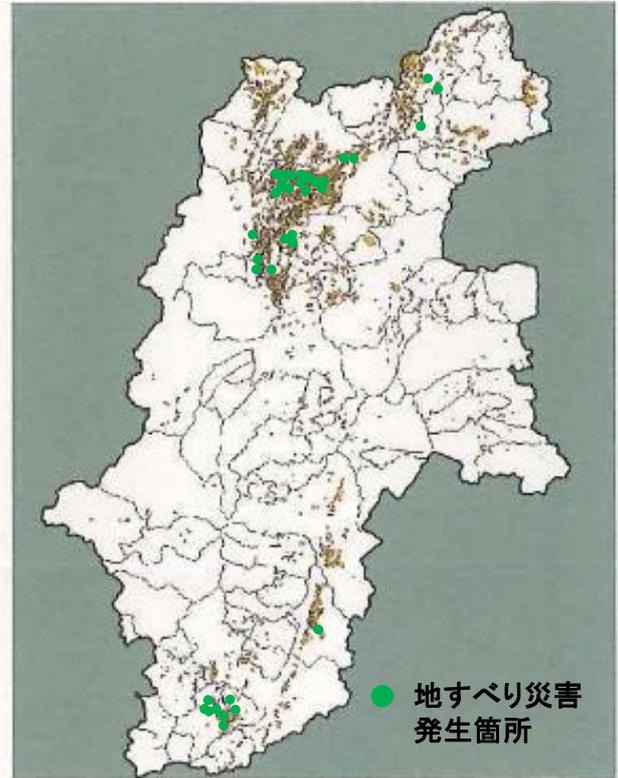


図-2 地すべり災害と地すべり危険箇所との重ね合わせ図

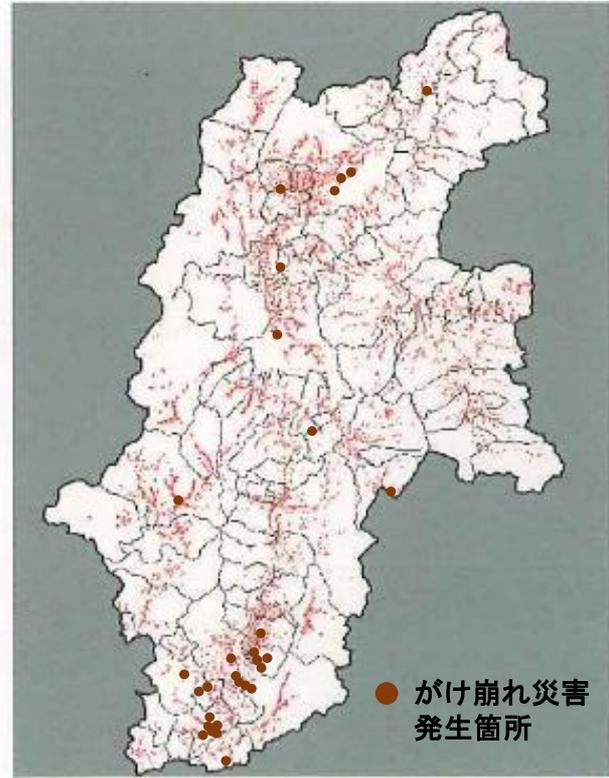


図-3 がけ崩れ災害と急傾斜地崩壊危険箇所との重ね合わせ図

※1 土石流危険渓流: 土石流発生の危険性がある溪流  
※2 地すべり危険箇所: 地すべりが発生しているあるいは地すべりが発生するおそれがある箇所  
※3 急傾斜地崩壊危険箇所: 斜面の角度が30度以上かつ高さ5m以上の箇所